

議事要旨

名称	阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりに関する意見交換		
日時	令和6年1月19日（金）	場所	杉並区役所
	13時35分～14時40分		
出席者	<p>○参加者： 杉一小を現在の場所に残したい現役保護者有志の会&OB保護者有志の会 1名</p> <p>●杉並区： 区長、政策経営部施設マネジメント担当課長、都市整備部まちづくり担当部長、都市整備部都市企画担当課長（事業調整担当課長）、教育委員会事務局次長（学校整備担当部長）、教育委員会事務局学校整備課長</p>		
配布資料			
<ul style="list-style-type: none"> ・次第、杉並区出席者一覧 ・阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりの取組状況等について 			
会議記録（要旨）			
<p>●杉並区：本日は前回に引き続き、保護者有志の会との意見交換となる。阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりの今後の進め方について説明した後、意見交換させていただく。最初に、私から配布した資料に沿って阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりの取組状況等についてご説明差し上げる。この間の取組についてはほとんど出席いただいているので簡単に説明させていただくと、説明会や団体等との意見交換をこの間出来る限りさせていただいており、本日の意見交換もその一環である。裏面には説明会等でいただいた小学校の移転、土地区画整理事業、A街区についての主な意見を記載している。続いて杉一小の学校づくりについて学校整備担当部長からご説明申し上げます。</p> <p>●杉並区：150年近い歴史を持つ杉並第一小学校がこれまで様々な教育活動をして来たことは十分承知している。それが行政だけでなく、地域の皆様の多大なご協力によって成り立ってきたことも承知している。この取組は、移転したら難しいという声はいただいているが、教育委員会はこれらの取組が無くなってよいとは考えておらず、継続できるよう支援していく。現地改築と移転改築はそれぞれプラスマイナスあるが、教育長が申し上げているのは、一番はこの場所に杉一小があったということであって、思い出や気持ちがみんなの中にいつまでもあることが重要ということである。子どもたちがこれから先、杉並第一小学校で生活するにあたって、どこで改築するのが良いか非常に悩んだが、私たち教育委員会は病院跡地への移転改築の方が望ましいと考えており、そのことをお伝えしたい。区長部局と教育委員会には役割分担はあるが、お互い連携・協力し、地域や学校関係者等も含め、どこに学校が建つとしても素晴らしい学校をつくっていききたいという気持ちは変わらない。良い学校をつくっていくというのが私達の使命であり、それを投げ出したり、手を抜くつもりはない。新しい場所で学校をつくる方がより望ましいと考えているので、今後も皆様の協力を得ながら、より良い学校づくりを進めていきたいと考えている。</p> <p>●（区長）：私からも今までの取組を踏まえたうえで、お伝えさせていただく。最初に申</p>			

し上げなければならないことは、私が区長に就任してから住民の広い合意が出来ていないものについては、一度立ち止まって、状況を検証したうえで判断していくということで、それが阿佐ヶ谷駅北東地区に関しては高まったということである。

主に8月31日からではあるが、約5か月間、その期間が決して十分だと思っ
てはいないが、今の時点で区民に対して説明責任として申し上げなければならないことは、実行計画と総合計画の見直しを1年間やってきて、それが来年度からスタートする。そして、それに伴った当初予算も動いていくが、その中で阿佐ヶ谷駅北東のプロジェクトについて、何も言わず引き延ばすということで、私たちが恐れていることは、今すでに出来てしまった分断が更に深まるということである。これはCSの方にも言われたが、意見の違いによる対立が子供を巻き込むことを危惧しているということであった。杉一の校長先生も区の決定に従って子供にベストな教育をしていくのがミッションである中で、分断が深まっていくことを危惧していた。今、次長から申し上げたように、私達はこの計画を、基本的には計画通りに進めていくことが適していると判断している。平成29年の時点でしかるべき意思決定をしてきたもので、その意思決定に従って協定が結ばれて6年半が経っている。この時間を巻き戻すことが出来るのであれば、今の時代に応じた多角的な検証が出来たのかもしれない。しかしながら今3つの協定が結ばれており、それに従って様々な関係者が土地の権利の譲渡や、区画整理事業の中で様々な努力をしている。その発端が杉一小の移転で、区が今の共同施行者に提案して始まった事業であることあり、ここで協定が締結されており、それを覆すことは非常に困難であるという条件のもとで、様々皆様の意見を聞きながら検証してきたというのが今の状況である。

土地交換が全くないことが想定できない中で、A街区に学校を作る方法が出来ないかということも、住民の方が考えたり、私たち自身もその可能性は検証してきたが、教育環境においては学校と日常的に使う校庭が離れることによる先生と子供達による毎日のオペレーションが極めて困難であり、想像を超える大きな負担になるだろうということは教育部局から聞いているところである。こういった教育の視点から非常に無理のある学校運営をするということ、あと5年くらい話し合っていくこと自体、今の条件で合意できる可能性は非常に小さい。合意を得られたとしても、協定を結び直す等でさらに時間がかかり、現実的には10年レベルの話である。お金の話で言えば今の環境条件の中で計画を変えると、区の試算では長期にわたってA街区を地権者から借りながら学校運営することになり、仮設校舎を含めると172億円という区の試算がある。

そうすると、この追加となる経費を区全体の議会で過半数以上の合意を得るということが極めて困難であるということは想像に難くない。こういう状況の中で判断する必要があるという一方で、この間私自身、教育部局と共に皆様の話を聞いてきたことは全て有意義であったと思っている。一つは今まで

不透明、閉鎖的で区民に伝わっていなかった計画を、できるだけ分かりやすく詳細な形で区民にお知らせすることが出来たということ。その間、疑問や懸念について都度答えられるような情報開示や、さらなる検討を地域社会や学校関係者に見せながら進めてきたこと。この説明責任をしっかりと果たさなければならないということを私は強く思っていた。特に私が就任前のプロセスについて、可能な限り開示するというのも重要な点であった。ただ、過去を明らかにしていく作業と未来を作る作業は、つながっているが違うことである。次のステップに行かなければならないと思っている。移転改築を行った場合、阿佐ヶ谷駅北東全体で重要な跡地が決まっていないのに、学校の移転が決まっているのはなぜかと言うもっともな意見も沢山いただいた。これに関しては施行者会に私が出席できたことにより、A街区をどのようにしていくかについて、区民が心配しているような大型の商業ビルやタワーマンションになるようなことは誰も考えていないことが確認できた。この先どうしていくかということは、夢はあるが具体的な話は出来ていないし、一致していないが、私が一番重要だと思っていることは、A街区の活用について3割ではあるが区民の持ち物であるので、区民に開かれた形で、学校と地域の医療をつなぐ、阿佐谷住民にとって大切な場所になるということから構想したいと思っている。当然防災も大きな論点であるが、学校が移転するC街区における防災の懸念、防災が良くなるプロジェクトであるということと相対する住民の方の防災に対する懸念がまだあると思う。これに対して区はしっかりと具体的な計画も含めて、例えばA街区の土地の高さを利用し、水害の際には学校ではなくA街区に避難できるようにすることなども考えたA街区のデザイン。地震や火災、水害で分けて、災害の規模や内容でどのように地域全体で防災計画を立てていくのかということ、今のタイミングで地域防災を改めて考えなければならないということもお伝えしたい。

いずれにしても、学校の関係者の方々は杉一小に通う子供たちが今まで行ってきた学校外の活動を含めてのびのび地域の皆様とやってきた活動を、近隣配慮を含めてストレスを感じずに今までと同じ気持ちでできる環境を作るということ、区長部局と教育委員会で長期にわたって皆さんと取り組んでいくという責任を表明したいと思っている。それによって小学校の色々なご意見の違いがあるとはいえ、今まで培ってきた財産と子供達の教育環境、具体的にはプラスバンドや朝学校、夏休みのキャンプなどが引き続きできるように我々も努力させていただきたい。

阿佐ヶ谷駅北東地区全体であるが、今後移転改築をさせていただくということで改築検討懇談会が立ち上がり、学校を中心として学校づくりが進んでいくわけだが、北東地区を一体的に文化、教育、医療、防災、緑。緑の回復というは私の大きな目標にしたいが、長期間かかっても、元々そうであった緑の拠点にあるような設計、特に学校の跡地に関しては広く区民参加によって検討を進めていく。もちろん地権者との合意協力、地権者との関係だけでなくその中に商店街関係者・学校関係者も含め区民が参画していくような、阿佐谷セ

セッションを仮称だが提案するのは、多様な意見や、一つの事象について、今までみんなと同じ写真をみられなかった様々な立場の人達が、一つの写真を見ながら進んでいける土壌を作る。その土壌としての阿佐ヶ谷セッションを提案させていただいて、ここに関しては学校づくりと伴走しながら広い区民参加のもとに、阿佐ヶ谷駅北東地区を作っていきたいということである。それを来週区民全体に表明させていただきたいと考えている。

●杉並区：区長が申しあげた内容は、区民に向け1月22日午後1時からインターネット Youtube 杉並区公式チャンネルにおいて区長メッセージ「阿佐ヶ谷駅北東地区の未来に向けて」という動画で配信する。本日は保護者有志の会の皆様に、その前に報告させていただいたところである。

○参加者：こういう機会をいただいて感謝している。基本的には現地建て替えについて言ってきたので今出ている結論に関しては残念である。私としては自分の力不足を感じている。今の結論は岸本区長が思っていたこととは違うことになっているのではないかと想像している。今この状況の中で、説明していただいていることが精いっぱいであると思うので、今後どうしたものかというところ。

今日ここに集まるに当たって、保護者や、CSの方や原風景の方に聞き取ったところによると、年末頃に区長がそういう方向に向かわれているという話を聞いて、年始以降どうしたものかと考えていた。今どうするという考えはないが、対話をして色々情報を開示してということが自分としては以前までは全然知らなかったことを1年前に初めてこの件を知って、様々なプロセスがあったことや区民の色々な団体の方と区長が直接話をしたことはものすごく大きな前進であると思っているし、私にとっては活動の成果と思っているが、対話はあくまでも手段であって、対話によって出てきた物のほんの一つでもいいから反映するものがあつたかどうかというのが結果であると思う。実際この5か月間の色々な対話について区長としてどういうことが成果だと思っているかお伺いしたい。

●(区長)：皆さんが見ているものと私が見ているものが同じだと思っていないが、私は全てが成果であると思っている。多くの方と対話して、何一つ変わらなかったと言われた。CSでも言われた。しかし、本当にそうなのだろうかとみんなでもう一度考えたい。このプロジェクトの進み方が根本的に変わったと思っている。今までの状態でこのプロジェクトが進んでいたら、少なくともこのプロジェクトに懸念を持っていたり、批判的な方たちはまったく度外視で進んでいたと思う。その方たちが今のような情報を得ることもなかったし、今後の阿佐ヶ谷駅北東地区のまちづくりに参画することもなかったのではないかな。そこには不信と諦めがあり、行政と協働していくという動きは作れなかったと思っている。いつも通りのお世話になっている方たちを中心に、このプロジェクトは進んでいき、スタンダードな学校改築が色々な人の恨みを抱えて進んでいったのだろうと思っている。

少なくとも私がやらなければならないと思ったことは、過去の民主的な決

定を覆すだけに値する圧倒的な財政的・社会的・教育的な優位性のある、しかも時間的な優位性があるかということを検討しなければならなかった。これに対して区民全員に説明できる、納得できる優位性を見つけることが出来なかった。現地改築の未来も、移転改築の未来もどちらもメリットデメリットがあり、これをどう見るかは人や立場で異なる。唯一私が信条としていることは、どちらの未来でも良い未来を作らなければならないし、完璧な未来もないということである。ならば私のポジションから出来ることは、今までの計画の先にある良い未来を作りたいというのが、一番大きな思いである。

これについて何も成果が無かったと思われる方がいるのは凄く残念であるが、この仕事が進んでいくことで証明していくしかないと思っている。そこで出来れば協力していただいて、良い未来が、計画に参画するからこそありうるというのが、有志の会のような方にも伝えていただきたいというのが、おこがましいかもしれないが、私の切なる思いである。

○参加者：今後のプロジェクトの進行において、区民の意見やアイデアが反映される可能性が広がったということか。

●（区長）：もちろんである。

○参加者：そこが中々実感できない。保護者・地域住民の意見交換会の際に来られてた方にも感想を聞いたが、確かに聞いていただいていること自体は前進であるが、計画を変える可能性を少しも感じることはなく、聞いてくれるが、聞き入れてくれるようには感じず、むなしく感じたという人がいた。またひどく失望して「もう選挙に行かない」という人も。大体の保護者の方はそこで虚無感や徒労感を感じて対話の輪から離脱している感じがする。それはせっかくこうやって「対話の区政」を進めてきているのにマイナス効果になる。

それが岸本区長にとっては残念なことであるかもしれないが、行政主体で住民の意見を聞かなかつた方からすれば、思うつぼであったりして、徒労感や虚無感を与えて意見を排除していった方が仕事が進みやすいと考える人がいるのかもしれないと思ったりする。だから、何かしらここだけは住民の意見を反映しましたと言える要素を具体的に作っていくことが大事。そういうお話をさせていただけると少しでも絶望している人を救うことになる。

先ほど圧倒的に覆す優位性がないという話があったが、私達からすると、決定的な問題がこの後出るかもしれないと懸念している。一つは換地の公正性であり、今誰も納得している状態になっていない。資料をお渡ししているが、以前の集会で公認会計士が作成したものを簡単に整理したものであるが、この話についての説明は区から伺えていない。結局情報は以前よりも明らかになったが、未だに情報がすべてクリアになっていないし、プロセスについても実はこういうことという話がある中で、先々の話がまだしにくい状況なのではないかという気がしている。

今までの会で区長が訴えられるリスクがあると話があったが、この件で訴えられるのが一番心配である。これは相続税の路線価をベースに換算して、C街区が通常より過大に、A街区が過少に評価され等価交換とされている資料で

あるが、区長自身はどのように解釈しているかが心配である。

- 杉並区：その公認会計士の方とは昨年末にお話ししており、試算はあくまで相続税路線価でされており、路線価自体相続税の参考計算のためである。通常の土地取引だと不動産鑑定士に鑑定してもらい、取引の正当性を確認する。相続税路線価で言われてもというところはある。今回不動産鑑定士に従前従後の価値を確認してもらっているところである。
- 参加者：そこの所は私も承知しているが、一般的に路線価で考えた時に、資料であるような差を埋めるような内容が明らかになっていない。区議が裁判を起こしたが黒塗りの状況である。そこを等価ですといわれても、この疑念は払しょくされないのではないか。少なくとも一般公開されている情報ではわからないと思うが、区長は評価の指数などはご覧になっていて、一つ一つの項目について納得されているのか。
- （区長）：自分の役目はそこを細かく調べて確認するというのではなく、そこは職員を信じるしかないのだ。
- 参加者：「信頼できる職員がそう言うので信頼しました」というだけでは、区長が心配だ。それで大丈夫なのか。
- （区長）：職員とチームでやっており、根拠はしっかり聞いている。情報を公開できないから半永久的に疑念が晴れないという気持ちはわかる。だから、私は情報を公開できない手法で事業を進めてはいけないと思っている。ただし、情報公開の法令があってそれを正すことはできない。未来については絶対に自分たちが公開できない情報をベースにした公共事業をやるつもりはない。過去に民主的なプロセスを経て決定されたことに対して首長が強権を発動できるのか、その根拠は何か、それに対する民主制は考え続けなければならない。私は自分の支持者を含めて物事を変えるのは時間がかかるということを区民自身が理解していくプロセスでもあると思う。行政も同じで、全てが間違っていたわけではないし、よりよく変えていくことはできるということを時間がかかるが、仕事のやり方や考え方を変えながら、少しずつ区民と協働していくというプロジェクトを都市計画の分野で作っていくということは、非常にチャレンジングなことだが、時代の趨勢であるし、色々な参考となる取組があるので、必要な部分に関して私は職員と一緒に変わっていけると思っている。
- 参加者：それはわかるし、恐らくこの先事業が立ち上がるものについて以前のような不透明なことをしないということだと思う。過去は変えられないのは当然だが、変えるにしても時間がかかるのは分かるが、一つ一つの当事者からすると、時間がかかっても3年後だったら解決するのであれば、その人にとっては通用しない話である。自分の子供の学校。自分の生活。自分の一番大切にしている環境がなくなる時に、「3年後なら」とは納得出来ない。私も違う地域で今の話を聞けばなるほどと思ったかもしれないが、当事者からすればそうは言ってもということである。時間がかかる話であろうから、白紙で無く、現計画を活かしてという話をしていたわけであり、A街区に学校を残す方法を検討いた

だいたと言っていたが、難しいありきでの検討ではないかと感じる。

「第二校庭」の話は、教育現場からいえばあり得ない話として私も原風景の会の方にはお話をした。これを対案のように出されると、「第二校庭」がダメだから現地建替えがダメ。だから移転しかない。と言う人が出てくるので。ただ、原風景の会の方のご説明では、これは普段使いの校庭という想定ではなく、都市計画により C 街区の使途が「学校等の教育施設」と決まっているので、それを変えない前提にするためにそう記載したと。特別な機会には使える場所としての「第二校庭」としたのだと。それが現実的な学校運営上あり得ないことと理解はしてもらっている。

だが、そういう点含め、対案の検討もまだしっかり行われていない。先日原風景の会主催でワークショップイベントがあり、移転前提ではなくフラットな状態で自由に A 街区と C 街区の在り方を話し合った。そういう場作りがもっと必要だ。

予算や計画といった行政としてのスケジュールがあるのはわかるが、移転前提でない予算の建付けにすれば、このタイミングで移転に舵を切らなくても良かったのではないかと。もう少し我慢すれば地権者や関係者も納得するような軟着陸できる案を出せたのではないかと思う。

この後議会があつて予算案を通す会があるらしいので、我々としては移転でないと思えない予算ではなく、現地建て替えても使えるような建付けの予算案に変えてもらうように働きかけるよう議員にお願いしている。全ての予算を滞らせることが目的ではなく、今このタイミングで決めなくともということであり、議論が足りていないのではないかということ。

●杉並区：誤解があるので説明するが、黒塗りの部分について、前区政の決定が理由ではなく、他の地権者の方の財産の情報があるためである。黒塗りにしてそのままではなく、私たちの方で出せる範囲で黒塗りの情報を基に、区画整理の従前評価などを出して、不動産鑑定の結果と見劣りしない数値を出している。区画整理後の情報についても地権者の方と区の土地の価値が増進していることがわかることを示しながら、情報を出せる範囲で出している。

○参加者：そこで誤魔化しているとは思っていないが、一般的にはこういう風にみられるのに黒塗りにしているのはどういう風に考えているのかということだと思う。やり方についてテクニカルなことがあるのはわかる。だが、住民訴訟を起こすだとか、記者発表をしてという話になってくると、分断という話があったが、より揉め事の深みに入ってくるのではないかという心配がある。

●杉並区：区としては情報を守る立場でもあるので、出せるものと出せないものがある。出せないにしてもわかりやすい説明が出来るよう留意しており、ご理解いただきたい。

○参加者：子どもたちや教育現場の分断という話があった。分断とおっしゃる方がいるのは知っているが、実際にはそこに分断は起きていない。一般の保護者や子どもたちで移転がいいという話はほぼ聞かない。子どもを含め一人も移転がいいという人を聞いたことがないのは PTA 会長もおっしゃっていたと思う。分

断がというのは移転させたいがために言っているのではないかと思う。そんな分断は感じたことはない。むしろ関心がない、虚しさから離脱している人などはいる。区長に期待していたのに裏切られたという人もいる。せっかく区長が変わって議会も変わって前に進みだしていることについてマイナスになるような話にはしたくない。

●杉並区： 私たちも悩みながらここに至っており、区長自身も個人的にも悩みながら進めてきており、それを謀略や作戦と言われるのは非常に残念である。そういうことを言っている人がいるということだと思うが、私たちの前任者においても、あらかじめ決まった方向性に後付けでやってきたことでなく、三者間のみならず職員同士部局間でも真剣に検討して進めてきた事実があり、だからこそ意思決定まで一定の時間をかけてきた。その是非や適性を議論するつもりは無いが、その上でこの間も意見を言っているけども反映してくれないという声に対しては、意見の中でも取り入れられるものとそうでないものがあることは仕方がないことである。ただ、取り入れることが出来るように努力していくことは我々の責任であり、一つ一つその作業を進めてきた。この計画も従前の計画をベースにすれば簡単に換えられるとおっしゃるが、その部分の受け止め自体私たちと異なっている。それはお互いに持っている情報が違うから仕方がない部分があるが、その部分を埋められるように私達なりに対外的に説明できる範囲で、説明資料やQ&A作成など、考えて努力してきている。

これらの取組もただ事業を進めるのであればやらなくて良いという人もいるかと思う。また、この先の議会などでもこういったことは議論として出てくると思うが、こういう取組をしてきたことは、区長が申し上げたように情報格差から生まれる同じ理解の土俵に立てないことや、区としても伝えたいことが上手く伝わらないことにより住民の中で賛成や反対の話が出てきてしまう部分があるかと思う。さきほど移転がいいと言い出す人がいないと言っていたが、それがイコール移転がいいと思っている人がいないことと同じではないと思う。私も移転がいいと思っている人が実際にいるかいないかはわからないが、お互いに言い出しにくい雰囲気があること自体が、極端な分断ではないかもしれないが、タブー視されているということはあると思う。そこを、このような様々な議論があることが分かっているながら、皆様の意見を出来るだけ聞いて、これから先考えていけることを考える。また、説明しなければいけないことを真剣に受け止めて考える。こういったプロセスを一つ一つやってきていることは、今の一過性のことではなく、この先もこのようにやっていくということの表れである。それをわかってほしいということではないが、このプロセスの結果は出なかったということかもしれないが、私たち自身真剣に考えてここに至っており、区長自身も悩んでここに至ったということだと私たちも受け止めている。

○参加者： 区長自身も職員も説明努力をされてきたということはわかる。私にとってはそれが成果と言えるし、それが区長の言う未来につながるものであれば、それは私にとっては希望のよりどころという気もするが、人によっては説明の努

力はしたるが、変えるつもりは無かったのではないかということは感じられる。

●杉並区：そこに関しては、私もオープンハウスの意見交換の場でも申し上げたが、今の計画を見直すとか、白紙撤回するという意思決定をしていない以上、今の計画を出発に考えるほかなく、説明も今の計画をベースに説明するほかない。その点をフラットにするのであれば、別の話になったかもしれないが。皆様がそういう風に感じるのも仕方がない点もある。ただ、一つ一つの意見に対してこの間丁寧に私たちが考え、答えてきたことは事実としてある。

●杉並区：おっしゃっていることは非常によくわかる。この取組だけでなく、施設再編で、この間研修などもさせていただいている中で、区民の皆様からご意見をいただく。区長が変わってから施設再編では進め方を変えていこうという形になり、区民の声を聞くということで、私たち自身も取組を進めていく中で、非常に多くの反対の意見を常にいただいている。

進め方自体が良いものなのかは内部でも議論している。区の考え方としては、何か結論ありきでやってきたわけではないし、改築の案についてもそうである。結果として当事者の方からそういう風に受け止められてしまったということは真摯に受け止めなければならないと思う。区の職員の中にはこれだけ頑張ったのにという思いがあるかもしれないが、相手があることなので、そういう意味では我々も努力していきたくところはあるが、それでよしとせず、区長が申し上げたように今後も引き続き努力していく。

今回の件について様々あったのは、当時のプロセスが根底にあったことをしっかり受け止めなければならないし、私も他の取組の中でも、当時理解が得られなかったことは、何年たっても住民の皆様が思いを抱えていることを肌感覚として感じている。それは住民の方にとっても区にとっても良くないことである。この杉一についても同様の経過はあって、今回の一連の取組でそれが埋められるとは思っていないが、今後取組を続けていくことで少しずつでも信頼が得られるようにやっていきたいと思っている。

○参加者：説明していただいたご努力はわかるし、前の区政ではなかったことなので大きな進歩と思っているが、先ほど言ったように変えない前提で説明努力をされてきた・・・

●杉並区：変える意思決定をしていないので計画の説明は今の計画をベースに説明せざるを得ない。

○参加者：それはわかるが、だが、変えない前提で説明努力をされてきたなら、そのせつかくのエネルギーを、変えることも含めてフラットに使うことが出来れば、もっと議論が深まるのに。6年前の話をしてもしようもないが、それが無ければ今の状況もなかっただろう。それがあつた中で、区は6年間色々なことをしてきた一方私たちは時間が止まったまま。それを埋めるということをしようとしていたわけだから、普通以上の対話なり歩み寄りが必要だったのではないか。5か月間色々やっていただいたが、議論し尽せてないのではないか。様々な点について良い悪いを議論できなかった。深い部分はこの前

新しいことを教えていただいたり、自分でも調べたり、一個一個話をしたいが、そういう機会は無かった。議論し尽してないし、この期間が非常に短く感じる。

予算のことがあるのであれば、先ほど言ったようにして、もう少し議論を継続すれば良いのと思う。

- 杉並区：一点お知らせする。学校の改築に関しては、4月に改築検討懇談会が始めるように準備をし、移転後の新たな校舎に関して検討を開始する。委員については学校運営協議会やPTAからも選出いただく形になっているのでご協力申し上げます。それでは本日の意見交換会は閉会とさせていただきます。